

【概要】

6. クモガタ類・多足類・陸生甲殻類

鳥取県における既知生息種数は、クモ目44科442種（鶴崎ら 2008；2011）、ザトウムシ目6科25種、カニムシ目4科12種、ダニ目57科159種（県内に生息するクモガタ綱は以上、4目）、ヤスデ綱7目15科31種（多足類のうち、ムカデ綱、エダヒゲムシ綱、コムカデ綱は未調査）、陸生等脚目9科14種（布村 2003；水生甲殻類については最近カニ類で報告（武田ら 2011）が出たほかは未調査）である。

うち今回のレッドリスト選定種はクモ目4種（前回5種）、ダニ目2種（前回と同じ）、ザトウムシ目11種（前回9種）、ヤスデ綱2種（前回と同じ）、陸生等脚目4種（前回と同じ）である。

新たに追加されたのは、ヒトハリザトウムシ（準絶滅危惧）とサトウナミザトウムシ（その他の重要種）である。前者は海岸性のザトウムシであるが自然海岸の減少が目立つ瀬戸内海沿岸や大都市周辺沿岸では生息地は少なくなっており2006年版の環境省レッドリストで掲載種となった（準絶滅危惧）。鳥取県は海岸部の生息地は比較的問題ないが、その後確認された河川感潮域での本種の生息地は護岸工事に大きく影響を受けていると考えられる。また、サトウナミザトウムシは染色体数の地理的分化が鳥取県中部で確認されたことと生息地が限定される傾向が強いことによる選定である。前回のリスト掲載種のうち、ダイセンヤチグモは、生息地がかなり広範囲にわたることがわかり危険度が低いと判断されたため今回は除外した。

最も注意を要するのは、クモではイソコモリグモ（絶滅危惧Ⅱ類）である。本種は海岸砂丘に巣穴をつくって生息する大型コモリグモである。本種は生息に一定規模以上の砂浜海岸を必要とし、砂浜海岸の縮小で鳥取県でも良好な生

息地は減少していると考えられる（Suzuki et al. 2006）。ザトウムシではゴホントゲザトウムシも、生息地の孤立により、前回の準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類にランクを引き上げた。

ザトウムシ類は移動性が乏しく外部形態や染色体数などに地理変異が観察されやすい動物群であるが、長脚で大型の種では県内に生息するほとんどの種で何らかの形質で交雑帯をとまう顕著な地理的分化が観察されている。ここでは、8種をその理由により、「その他の保護上重要な生物」で選定した。

（鶴崎展巨）

■引用文献

布村 昇（2003）鳥取県産陸生等脚目甲殻類. 山陰自然史研究, 1: 5-9.

Suzuki, Sh., Tsurusaki, N. & Kodama, Y. (2006) Distribution of an endangered burrowing spider *Lycosa ishikariana* in the San'in Coast of Honshu, Japan (Araneae: Lycosidae). Acta Arachnologica, 55: 79-86.

武田正倫・古田晋平・宮永貴幸・田村昭夫・和田年史（2011）日本海南西部鳥取県沿岸およびその周辺に生息するカニ類. 鳥取県立博物館研究報告, 48: 29-94.

鶴崎展巨・岡田珠美・有田立身・井原 庸（2008）鳥取県の真正クモ類（クモガタ綱クモ目）. 山陰自然史研究, 4: 23-48.

鶴崎展巨・池原雄太・川戸悟史・仁宮雅弘・家高竜治（2011）鳥取砂丘砂防林の樹上性クモ相と季節消長. 山陰自然史研究, 6: 45-53.



イソコモリグモ



ゴホントゲザトウムシ



ヒトハリザトウムシ

ニホンチビヒメフナムシ 等脚目 (ワラジムシ目) フナムシ科
Ligidium (Ligidium) paulum Nunomura, 1976

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：布村 昇

■**選定理由**：全国的にも限られた地域からしか知られておらず，県内に広く分布しているニホンヒメフナムシに比べ極端に発見例が少ない。生息場所も落葉層下部層に限られるため発見される機会は少ない。

■**特徴**：体長4 mmまで。生時は褐色。第2触角は6-8鞭節から，目は20-30個眼からなる。第1胸節後側縁はほぼ直角。第1胸節後側部に束状の毛をもつ (*Ligidium* 亜属の特徴)。腹尾節の後縁は円い。雄第2腹肢内肢は長く，その先端部は細い突起物となる。ニホンヒメフナムシ *Ligidium (Nipponoligidium) japonicum* より小型で，少数の卵を産む。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町山王滝と鳥取市鹿野町河内。 県外：京都府，福井県，群馬県の限られた場所のみ (日本固有種)。

■**保護上の留意点**：既知産地はよく保全された森林であることから，落葉層の発達した森林の保護が重要と思われる。

■**文献**：16, 17.

執筆者：布村 昇

ニホンハマワラジムシ 等脚目 (ワラジムシ目) ウミベワラジムシ科
Armadilloniscus japonicus Nunomura, 1984

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：布村 昇

■**選定理由**：自然海岸の飛沫帯で，適度の湿り気と塩分があり，潜行可能という限られた底質にのみ生息。県内の分布も限定されると予想される。

■**特徴**：体は平たく楕円形。体長5.5 mmまでで，体幅の1.8倍。生時は赤紫で平たい。頭部前縁中央に前方に突き出た鋭い突起がある。第2触角は4鞭節からなる。目には6個の個眼がある。雄の生殖突起は紡錘形。腹肢には偽気管をもたない。第1腹肢内肢先端は細くなり先端でとがる，外肢は丸い。雄第2腹肢内肢は細長く，外肢は丸みを帯びた三角形。尾肢原節は大きく両肢は細い。腹尾節は丸い。自然の岩礁海岸や適当な形状の転石海岸。適度の大きさの砂利の飛沫帯など適度な湿り気と塩分などの条件がそろった環境でのみ発見される。

■**分布** 県内：湯梨浜町 (旧泊村，羽合町)，琴浦町 (旧東伯町) など生息地は比較的限られている。 県外：日本全国。

■**保護上の留意点**：自然海岸の大規模な改変を避ける以外に方法はない。

■**文献**：18.

執筆者：布村 昇

ニッポンヒロワラジムシ 等脚目 (ワラジムシ目) ヒメワラジムシ科
Littorophiloscia nipponensis Nunomura, 1986

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：布村 昇

■**選定理由**：県内では湯梨浜町 (旧泊村) などの限られた自然海岸において，飛沫帯の特定のゾーンの限られた部位から知られるのみ。

■**特徴**：体長4.7 mmまで，生時の色彩は赤茶色。第2触角は3鞭節からなる。目は8-9個眼からなる。雄生殖突起は先端に向かって尖る。雄第1腹肢内肢は比較的太く先が尖る。外肢は丸みを帯びた三角形。雄第2腹肢内肢は細く長い，外肢は丸みを帯びた三角形。自然海岸の飛沫帯のうち，適度な湿り気をもつくぼみのある岩盤をはじめ，粗い砂や砂利が堆積しているなど，独特の環境条件を満たす場所にのみ生息する。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市青谷町，湯梨浜町 (旧泊村)，などの自然海岸の飛沫帯の限られた場所。 県外：全国各地および韓国。

■**保護上の留意点**：上のような海岸は人為的改変に対して脆弱であり (容易に乾燥する)，生息地が消滅しやすいため，注意が必要である。

■**文献**：19.

執筆者：布村 昇

ニシカワハヤシワラジムシ 等脚目(ワラジムシ目)トウヨウワラジムシ科

Agnara nishikawai (Nunomura, 1987)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：布村 昇

■**選定理由**：県内の既知生息地が限定されるが、調査は不十分。

■**特徴**：体長6.7 mmまで。生時は白または薄い褐色。第2触角は2鞭節からなり、第2節は第1節の2.6倍の長さ。第1胸節後側縁は丸みを帯び、凹みはない。雄生殖突起は細い紡錘形。雄第1腹肢内肢はまっすぐ、外肢は半円形で外縁に浅い凹凸がある。雄第2腹肢内肢は外肢より短い。尾肢外肢は内肢より太く長い。腹尾節の後端はほぼ直角である。県内では1984年に大山町大山西歩道の林内の土壌リター中から採集された標本があるだけであるが、調査がすすめばもっと広範囲に出現する可能性がある。また、この類の分類は発展途上であり、将来は分類学的扱いが変更される余地も残されている。

■**分布** 県内：大山町大山。県外：島根県，山口県（日本固有種）。

■**保護上の留意点**：生息範囲の調査が望まれる。

■**文献**：20.

執筆：布村 昇

コヤマホラケヤスデ ツムギヤスデ目ホラケヤスデ科

Speophilosoma koyama Shear, Tsurusaki & Tanabe, 1994

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



鳥取市湖山／撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：現時点では鳥取市湖山周辺の小丘陵にのみ生息する固有種で、これらの小丘陵の林地が消失すると絶滅のおそれがある。

■**特徴**：落葉および常緑広葉林の林床の落葉落枝層にすむ体長5 mm(雄)–5.5 mm(雌)前後の小型白色のヤスデ。胴節数26。おもに千代川から東側の丘陵に分布するトトリホラケヤスデ *S. tottoriense* とは片側の眼域あたりの単眼数が3–5(トトリでは10)であることで区別できる。岩美町から三朝町までの丘陵林地には、もう1種、よく似たオカシロケヤスデ *Japanoparvus okai* (胴節数28, 単眼数3–6) が生息する。成体は晩秋から翌年5月頃まで出現。鳥取市湖山天神山がタイプ産地。

■**分布** 県内：おもに千代川以西の湖山周辺の小丘陵。県外：現在のところ鳥取県固有種。

■**保護上の留意点**：鳥取平野内の樹林地は小規模でも残すことが重要。

■**文献**：23, 24.

執筆：鶴崎展巨

クビオビヤスデ オビヤスデ目オビヤスデ科

Epanerchodus tenuis Takakuwa, 1954

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—

同属のオビヤスデの1種 倉吉市天神川河川敷
2006.10.31／撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：1954年の原記載（タイプ産地：東伯郡三朝町）以来、タイプ産地周辺を含む採集努力にもかかわらず、どこからも採集記録がない。タイプ標本が失われているため正体がよくわかっていないが独立種であれば分布域が限定されている可能性がある。

■**特徴**：体長23 mm，体幅2.5 mmほどの中型のヤスデ。背板には格子状の彫刻がある。広島県から滋賀県までの本州に分布するイシダオビヤスデ *Epanerchodus ishidai* Haga, 1956 と同種の可能性が示唆されている。後者は県内でも扇ノ山，若桜町，関金町で記録されており、タイプ産地周辺で標本を得て、両者の異同を確認することが急務である。

■**分布** 県内：東伯郡三朝町（タイプ産地）。現在のところ鳥取県固有種。

■**保護上の留意点**：分布域が限定されている可能性がある。タイプ産地一帯では森林の一斉皆伐を避けるなどの配慮が望まれる。

■**文献**：15, 33.

執筆：田辺 力・鶴崎展巨

キシノウエトタテグモ クモ目トタテグモ科
Latouchia typica (Kishida, 1913)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市久松公園 1993.5.8 / 撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：県内では鳥取市久松山山麓から知られるのみ。個体数も非常に少ない。

■**特徴**：体長(雌)15 mm内外。崖地にハッチ式扉をもつ横穴式の管状住居をつくる。久松山の集団については不明だが、関東地方での調査によれば7-8月に産卵、孵化後2年で成体に達し、秋に交尾して雄は年内に死亡、雌は翌夏に住居内で産卵して、その後も数年生き続けるという。梅雨の頃にはしばしば冬虫夏草の1種クモタケが発生する。

■**分布** 県内：鳥取市久松山(久松公園、水道谷)。県外：本州・四国・九州(日本固有種)。日本海側の既知生息地は少ない。

■**保護上の留意点**：久松公園の一角の本種の生息する崖地側面をコンクリートなどで固めてしまうことのないよう注意してほしい。

■**文献**：13, 14, 25, 27, 56。

執筆：鶴崎展巨

キノボリトタテグモ クモ目トタテグモ科
Conothele fragaria (Dönitz, 1887)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



雌 愛媛県温泉郡重信町 2000.5.19 / 撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：既知生息地が限られており、個体数も少ない。

■**特徴**：体長雌10 mm, 雄7 mmほどの黒紫色のクモ。神社の石垣や古木の樹幹のくぼみなどにハッチ式扉をもつ長さ2-3cmの袋状の住居をつくり中に潜む。住居の外側は泥や樹皮碎片で覆われ発見しづらい。成体は、雄は5-7月、雌は周年みつかるといわれる。

■**分布** 県内：岩美町長谷長谷神社、浦富熊野神社；鳥取市倉田八幡神社、徳尾の森、鳥取市猪子、玉津神社、倉吉市打吹山、倉吉市福庭波波伎神社、湯梨浜町宮内倭文神社、南部町金華神社、日野町金持神社から知られる。県外：本州、四国、九州、南西諸島。日本固有種。

■**保護上の留意点**：神社境内の過度の清掃、石垣のコンクリート目張りなどは本種の生息に大きく影響するので、生息地では配慮いただきたい。

■**文献**：3, 27, 55, 56。

執筆：鶴崎展巨

ワスレナグモ クモ目ジグモ科
Calommata signata Karsch, 1879

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



雌 岩美町牧谷 2001.5.12 / 撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：県内での生息確認地が限定される。庭園、公園の芝生などに生息するため人為的影響を受けやすく、既知生息地のいくつかでは現在は生息が確認できない(たとえば鳥取大学地域学部のローンでは2008年の建物改修にともなう芝生の踏みつけで、現在は確認できない)。

■**特徴**：体長雌17 mm内外, 雄7 mm内外。明るい床下や芝生のある裸地などの地中に縦穴の管状住居をつくる。住居内は糸で密に裏打ちされるが、巣の入口に扉はない。雌は年中、雄(鳥取県では未確認)は9-10月に採集される。

■**分布** 県内：岩美町(陸上、牧谷)、鳥取市(東町、湖山南、猪子)。県外：本州・四国・九州；朝鮮半島, 中国。

■**保護上の留意点**：生息地の地表が高茎の雑草で覆われないように、芝生が維持管理されることが大切と考えられる。

■**文献**：4, 22, 26, 27, 56。

執筆：鶴崎展巨・佐藤隆士

イソコモリグモ クモ目コモリグモ科 *Lycosa ishikariana* (S. Saito, 1934)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



雌 鳥根県浜田市アクアス前海岸 2005.6.6/撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：県内の砂浜海岸に散在的に分布。近年個体数の減少が著しい。鳥取県は本種の分布南西限。

■**特徴**：体長雄15 mm内外，雌20 mm内外の大型のコモリグモ。灰褐色の毛におおわれ全体に白っぽいが頭胸部の中央や腹部前方の中央部は黒褐色となる。砂浜に10–20 cmほどの深さの巣穴をつくり中に潜む。巣の入口には糸の裏打ちがみえるので，他の昆虫や甲殻類が作成した穴とは区別できるが，夏季の日中や冬季は入口を閉じており発見しにくい。

■**分布** 県内：鳥取砂丘から米子市弓ヶ浜までの県内のほぼ全域の砂浜海岸。県外：本州，北海道，国後島。生息地は日本海側に多く南西限は島根県益田市。太平洋側では茨城県が南限。

■**保護上の留意点**：海浜植物群落をともなう砂浜が広面積で維持されることが重要。後浜部分にも多くの巣穴が見られるので踏みつけに注意。

■**文献**：2, 10, 32, 50, 56.

執筆：鶴崎展巨

カロナギサダニ ダニ目ウシオダニ科 *Actacarus karoensis* Abé, 1990

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雌 賀露海岸 1987.6.10/撮影：安倍 弘

■**選定理由**：鳥取市賀露海岸の波打ちぎわの砂の中から採集された標本に基づいて記載された種で，今のところ他所からは発見されていない。

■**特徴**：雌雄ともに体長が200 μm程度の小型のダニである。体は長楕円形で，脚は細い。胴部背面は，前方の背前板と，後方の大きな背後板によって全体が被われ，左右の眼板は小さい。背前板には1対，背後板には4対のきわめて細い糸状の背毛を備える。年間を通じて生息するが，夏季には個体数が減少する。

■**分布** 県内：鳥取市賀露海岸（タイプ産地）。粒度の比較的粗い砂中間隙にしか生息せず，鳥取砂丘や浜村海岸（鳥取市気高町）などの細かい砂粒からなる海浜では発見されない。県外：現在のところ鳥取県固有種。

■**保護上の留意点**：カロナギサダニの保護には，賀露海岸の砂浜が守られることが必要である。それと同時に，この海が汚染されないことが不可欠である。

■**文献**：1, 8.

執筆：安倍 弘

スナヒメハダニ ダニ目ヒメハダニ科 *Aegyptobia arenaria* Ehara, 1982

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—

鳥取県立博物館所蔵 雌パラタイプ標本
鳥取砂丘 1981.9.1 江原昭三採集/撮影：一澤 圭

■**選定理由**：鳥取砂丘をタイプ産地とするカワラヨモギ寄生のダニで，現在まで当地以外では見つかっていない。

■**特徴**：口吻を含む雌の体長は330 μmほど。体は扁平で背面から見ると長楕円形。胴部の前端中央には深い切れこみがある。雄は見つかっていない。本種は本属の日本で唯一の種で，鳥取砂丘に生育するカワラヨモギから採集された個体に基づいて記載された。和名の「スナ」は砂丘に因む。生活史は不明だが，年に数世代を経過すると考えられている。

■**分布** 県内：鳥取砂丘（タイプ産地）。現在のところ鳥取県固有種であるが，他地域でも探せば見つかる可能性は高い。

■**保護上の留意点**：寄主植物であるカワラヨモギ群落の維持が重要。カワラヨモギは鳥取砂丘ではあまり多くはないので注意が必要。

■**文献**：5, 6, 7, 8, 9.

執筆：鶴崎展巨

ダイセンニセタテツメザトウムシ ザトウムシ目ミツツメザトウムシ科
Metanippononychus daisenensis Suzuki, 1975

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



雌 智頭町右手峠 1993.5.8/撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：鳥取県とその近辺の山地の固有種。県西南部の山域では生殖器官の形態などに地理変異が認められる。

■**特徴**：全体黄橙色で短脚小型（体長1.5–2.0 mm内外）。おもにブナ帯以上の山地森林の落葉落枝層に生息し、幼体は7–8月に、成体は周年見つかる。雄の生殖器官形態で、分布域の西端に位置する日南町の船通山から道後山にかけての地域の集団（道後型）は、それ以東の集団（基本型）と区別できる（分布境界では両者は中間型を介して移行する）。

■**分布** 県内：鳥取県とその近辺の山地（おもにブナ帯以上）。鳥取県大山がタイプ産地。県外：中国地方東部（兵庫県宍粟郡一宮町富士野峠から島根県仁多郡横田町船通山～広島県道後山まで）の固有種。

■**保護上の留意点**：地理的分化の観点からは日南町の集団の保全がもっとも重要。

■**文献**：31, 35.

執筆：鶴崎展巨

ゴホントゲザトウムシ ザトウムシ目マザトウムシ科
Himalphalangium spinulatum (Roewer, 1911)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



雄 鳥取市待居 2006.6.2/撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：県内では鳥取市待居の千代川河川敷の1カ所のタケ林・河畔林に生息が知られるのみ。集団の規模が小さく絶滅の危険が大きい。当地での2006年の調査では生息範囲は以前よりも縮小傾向だった。

■**特徴**：体長1 cm内外の大型でやや短脚のザトウムシ。体は黒褐色で腹部背面の中央に5個の短いとげが縦列する。人里付近の雑木林や竹林などに生息。九州では山地の草原にもみられる。幼体越冬で、成体は5–6月頃に出現。

■**分布** 県内：鳥取市待居の千代川河川敷（通称、国安堤）のマダケ林。県外：茨城県以西の本州、四国、九州（国内では九州以外はどこも分布は局地的）；朝鮮半島，中国。

■**保護上の留意点**：もともとやや開けた環境を好む種と思われる。生息地の雑木林や竹林が放置されて林床が過度に暗くなりすぎないように適切な維持管理が望ましい。

■**文献**：28, 36.

執筆：鶴崎展巨

ヒコナミザトウムシ ザトウムシ目カワザトウムシ科
Nelima nigricoxa Sato & Suzuki, 1939

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



交尾後ガード中の雌(左)と雄(右) 大山大山寺 1992.10.3/撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：鳥取県大山付近で染色体数が $2n=16-20$ の幅で変異し、交雑帯も観察される。また、県東部では歩脚基部の斑紋が変異する。

■**特徴**：体長雄6 mm，雌9 mm程度，歩脚開長は15 cmを超える。県内全域の山地森林でもっとも普通のザトウムシ。卵越冬で成体は8月上旬から11月まで。染色体数は県内で $2n=20$ （大山以西），18（大山東部～倉吉市），16（倉吉市以東）と分化し，それぞれの分布境界で交雑帯をつくる。また，近畿地方北部の集団は歩脚基部が黒化するが，この性質は千代川の西側にまで及び，鳥取市鹿野町付近で黒化しない型に漸次移行する。

■**分布** 県内：県内全域の山地。県外：千葉県，伊豆・箱根地方，福井県以西の本州，四国，九州（日本固有種）。

■**保護上の留意点**：染色体交雑帯の成立する大山周辺と蒜山北斜面（ $2n=18/16$ ），斑紋に関する交雑帯のある鳥取市鹿野町周辺の集団に配慮を要する。

■**文献**：37.

執筆：鶴崎展巨